

辻元清美の

永田町航海記

日 中関係が心配だ。

今回の尖閣諸島沖事件は、初動が問題。トラブルの処理方法は二つ。逮捕・勾留・取調べの結果、起訴・不起訴を決めるか、不屈きモノが入国したので、即刻強制送還するという対応。小泉政権では尖閣諸島に七人の中国人が上陸、二日後に強制送還した。今回は船が衝突してきたらしいので状況は違うが、先の展開をしっかりと読んでおく。紛争処理の知恵を歴史に照らして学んで対応を決めたのだろうか。

海上保安庁は国土交通省所管だ。当時の前原国交大臣が石垣島に巡視船の被害状況を視察、という報道を受けて「緊張している時、大臣は現場に行かない方がいいのに」と不安になった。私は国交副大臣時代、海上保安庁と危機管理の担当だった。今も近くにいたら石垣島行きは止めていたなあ。

九月二日、奈良でのAPEC観光大臣会合のため来日する中国観光局副局長による表敬訪問を、新国交大臣の馬淵さんが断った。「ヤバイ」とすぐに馬淵さんに電話。つながらず国交省幹

リターンズ

89

イラストレーション／石坂啓



東アジア往来の活性化が「安全保障」 民主党会派として国会側から前へ

部に事情を聞くと、外務省と相談しての対応らしい。「ちゃんと会って向こうとのチャンネルにした方がいいのに」と私。「辻元さんがいたらさうおっしゃると思っただけ」と心細げ。

ある経済界の重鎮と会う。「特使を出すのなら河野洋平さんのような古くから中国と信頼関係のある方を、と前原外務大臣に伝えて」との話だった。「村山富市さんもいいですね」と私。訪米中の前原さんに伝える。

在日中国企業協会一〇周年パーティー。「こんな時だからこそ」と会場の中国大使館を訪問。自民党の加藤元幹事長もご出席で、「政府が対立している時こそ議員外交が大事」と意見一致。

奈良の観光大臣会合の件で観光庁長官に電話すると「中国代表団は記念写真にも入りません」とのこと。「ニイハオ」と中国側の副局長にハグしたら、周りが凍りつきました」と長官。

私は観光立国推進本部事務局長時代に中国個人旅行者の日本入国ビザの条件緩和をまとめた。抵抗する官庁もあったが財政出動を伴わない経済対策として押し切った。中国からの観光客は八月までに一〇四万人ですでに昨年の年間一〇一万人を抜いている。今回キヤンセルになった中国企業の一万人の訪日も実は私が「営業」をかけて韓国と競り合ってGETした企画だった。

私は東アジアの往来の活性化が最大の「憲法九条を活かした安全保障」だと力を入れてきた。内需を刺激し地方の若者の仕事作りにもなる。町興しや観光のNPOを応援する制度の整備にも着手していた。今国会からは、国土交通委員会の与党筆頭理事（無所属だが、民主党と会派を組む無所属クラブ入り）を引き受けることになった。引き続きこれらの政策が後退しないよう、国会側から前に進めていきたい。

明日は中国の建国祝賀パーティー。参加し、解決に向け党派を超えた議員外交をしよう。できることは何でもしなきゃ！（つじもと きよみ・衆議院議員）